



プロティビティ

改訂COSO内部統制の原則に関わるサーベイレポート

内部統制や全社リスクマネジメント(ERM)に関するガイダンスを提供するトレッドウェイ委員会組織委員会(COSO)は、2013年5月に改訂内部統制の統合的フレームワーク(改訂フレームワーク)を公表しました。1992年にCOSOによって公表された現行の統合的フレームワーク(現行フレームワーク)は、幅広く受け入れられ、とりわけ、米国SOX法404条の評価報告に適用されるフレームワークとして広く普及し、日本の金融商品取引法で提示されている内部統制フレームワークのベースとなっています。

改訂フレームワークでは、内部統制の定義や枠組み(キューブ)の構造などは現行フレームワークと基本的には同様であり、内部統制の有効性を評価するために使われる基準として大きな変更はないとも言えます。一方で、新フレームワークでは、原則主義を前面に出し、内部統制の5つの構成要素を支援する17の原則(Principles)を盛り込んでいます。COSOは、何が有効な内部統制を構

成するかについて経営者の理解を深めるためにこれらの原則を明示的に示すことを決めたとされています。各々の原則を支えるのは、原則に関連する重要な特徴を表す着眼点(Points of focus)であり、内部統制を整備・導入・実施する際や、関連する原則が存在し機能しているかどうかを評価する際に、経営者を支援するための有用なガイダンスとなることが意図されています。

プロティビティでは、改訂フレームワークの17の原則に沿って、それら原則が存在し機能しているかを各企業の内部統制構築・評価などの活動を担当されている方々がどのようにとらえているか、2013年6月から7月にかけて主にプロティビティのメルマガ読者に対してサーベイを実施しました。その結果、約65名の回答者を得ることができました。以下はその結果を分析したレポートとなります。このサーベイ結果が、改訂フレームワークの概念の理解に役立つとともに、今後の取り組みに関して有益な情報となれば幸いです。

COSOフレームワーク改訂の影響について

- COSOフレームワークの改訂による、「財務報告に係る内部統制評価」の取り組み・評価項目の見直しの必要性については、必要性があるとした回答は34%に留まりました。反面、日本の内部統制報告制度において、金融庁が示している内部統制のフレームワーク・評価のアプローチ・評価項目については、見直すべきとの回答が54.7%と過半数を上回りました。
- リスクマネジメントや内部統制の取り組みにおいて、改訂フレームワークが提唱するような、リスクアプローチの考え方が体系的に採り入れられているかとの質

問については、過半数の回答者から、既に採り入れられているとの回答が得られました。

- 全社レベル(グローバル拠点を含む)の、財務報告以外の内部統制を今後の見直し・評価するにあたり、改訂フレームワークのガイダンスを活用する価値があるかとの質問に対しては、79.2%という大多数の回答者から肯定的な回答がありました。
- 今回のCOSOフレームワーク改訂で、もっとも称賛される点、より解説・題材・事例が必要と考える項目は双方とも「原則主義の導入と17の原則の明確化」が最も高い回答結果となりました。

改訂フレームワーク COSO 17の原則について

下記の原則については、75%以上の回答者が、「十分に整備・運用されている」または「十分に整備されているが、運用に一部改善が必要である」と回答しています。

- [統制環境 原則1] …… 誠実性および倫理観に対するコミットメント
- [統制環境 原則2] …… 独立した取締役会による内部統制の整備運用状況の監視
- [統制環境 原則3] …… 組織構造、報告経路および適切な権限と責任の確立
- [統制活動 原則12] …… 明確な方針および手続きによる統制活動の展開
- [リスク評価 原則6] …… 内部統制の目的の明示(外部財務報告目的、内部報告目的、コンプライアンス目的)
- [モニタリング 原則16] …… 日常的評価および／または独立的評価の実施。
- [モニタリング 原則17] …… 内部統制の不備の評価、伝達

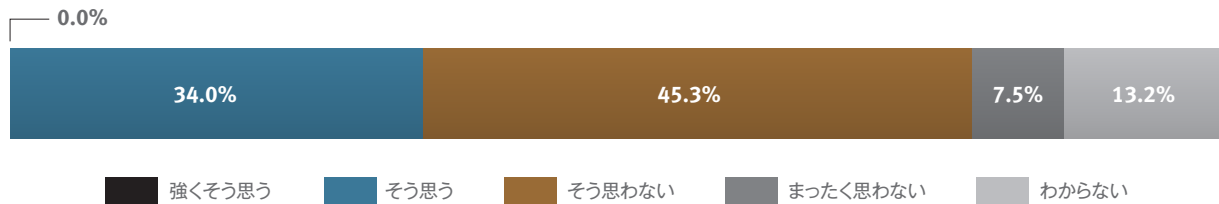
下記の原則については、35%以上の回答者が、「整備・運用に一部改善が必要」または「整備運用ともかなり改善が必要である」と回答しています。

- [統制環境 原則4] …… 有能な人材を惹きつけ、育成、維持する
- [リスク評価 原則7] …… 目的の達成に関連するリスクの識別と分析
- [リスク評価 原則8] …… 不正の可能性の検討
- [リスク評価 原則9] …… 重大な影響を与え得る変化の識別、評価
- [情報と伝達 原則13] …… 質の高い情報の入手、作成、利用

アンケート結果詳細

1. COSOフレームワーク改訂の影響について

- 1.1. 改訂フレームワークの原則を考慮すると、貴方が所属する会社では「財務報告に係る内部統制評価」の取り組み・評価項目を見直す必要があると思いますか？



- 1.2. 改訂フレームワークは、より多くの利用者が財務報告の枠を超えて適用するとの期待をもって提供されています。貴方が所属する会社では、「財務報告以外の内部統制」の目的（コンプライアンスや業務の有効性・効率性）において、COSOのようなフレームワークや基準にそって内部統制評価が体系的になされていると思いますか？



- 1.3. 貴社のリスクマネジメントや内部統制の取り組みにおいて、改訂フレームワークが提唱するような、経営者のリスク選択、リスク許容度の考慮、業務目標及び財務目標、リスク評価と連動した統制活動など、リスクアプローチの考え方が体系的に採り入れられていると思いますか？



プロテビティ 改訂COSO内部統制の原則に関わるサーベイレポート

- 1.4. 改訂フレームワークに当てはめて考えると、貴方が所属する会社の「財務報告以外の内部統制」の目的（コンプライアンスや業務の有効性・効率性）において、リスク評価や内部統制評価の取り組み・評価項目を変える必要があると思いますか？



- 1.5. 貴社が全社レベル（グローバル拠点を含む）の、財務報告以外の内部統制を今後の見直し・評価するにあたり、改訂フレームワークのガイダンスを活用する価値があると思いますか？



- 1.6. COSOフレームワークで提唱されているような内部統制を、組織文化および業務に浸透させるために、貴方が所属する会社の内部監査は重要な役割を果たしていると思いますか？

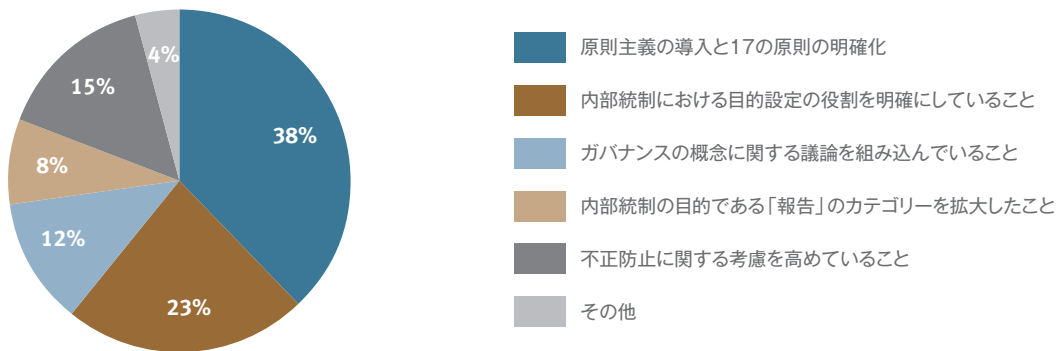


- 1.7. 日本の内部統制報告制度において、金融庁が示している内部統制のフレームワーク・評価のアプローチ・評価項目などは、COSOの原則や着眼点の考え方や評価の手順を採り入れて見直すべきだと思いますか？

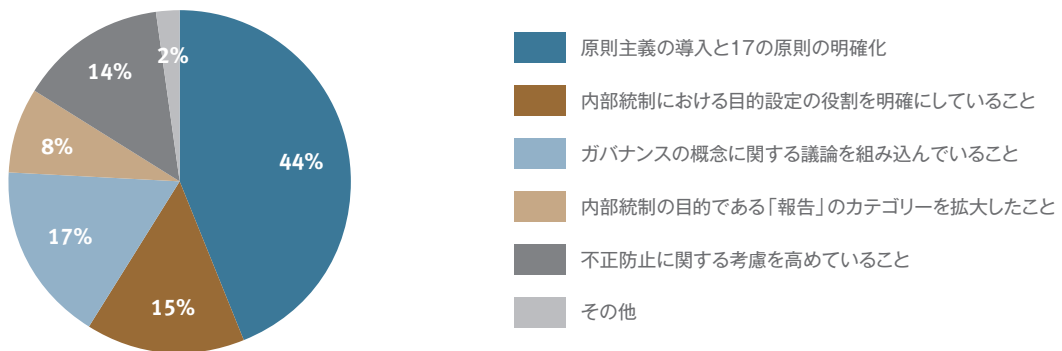


プロテビティ 改訂COSO内部統制の原則に関わるサーベイレポート

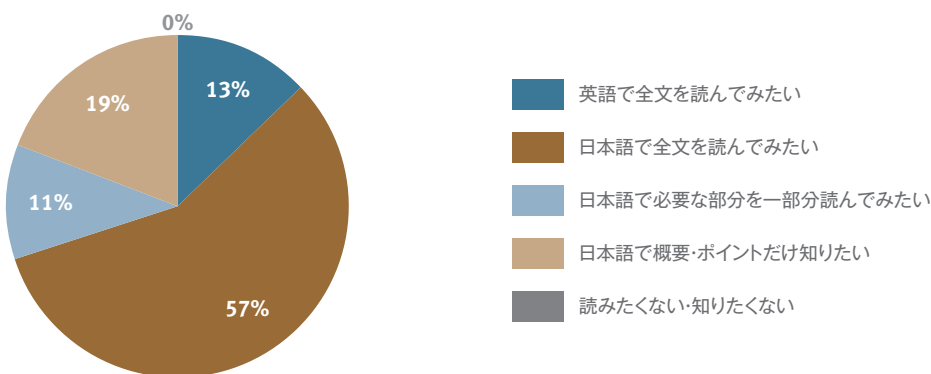
1.8. 今回改訂された内容で、もっとも称賛すべき点と考える項目は、次のうちのどれだとお考えですか？



1.9. 今回改訂された内容で、より解説・題材・事例が必要と考える項目は、次のうちのどれだとお考えですか？



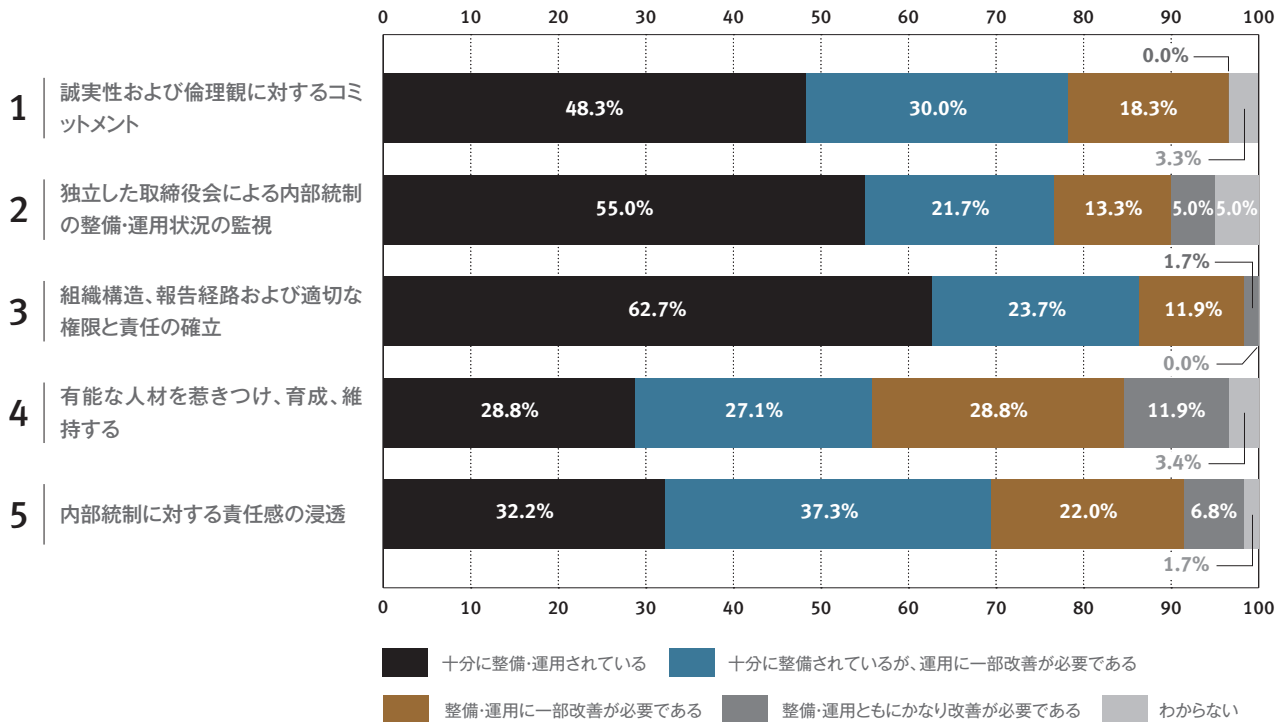
1.10. COSOの本文を読みたいと思いますか？



2. 改訂フレームワークCOSO17の原則について

貴方が所属する組織では、(着眼点も踏まえた)各17原則の内容が、どの程度整備・運用されているとお考えでしょうか？

[統制環境]



[リスク評価]

6. 内部統制の目的の明示

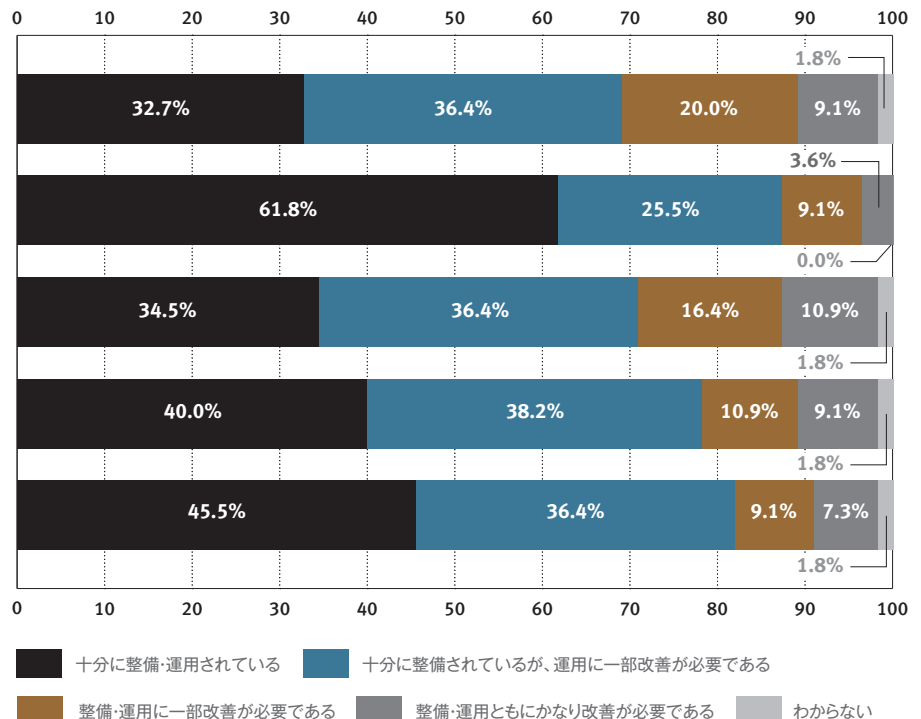
6a 業務目的

6b 外部財務報告目的

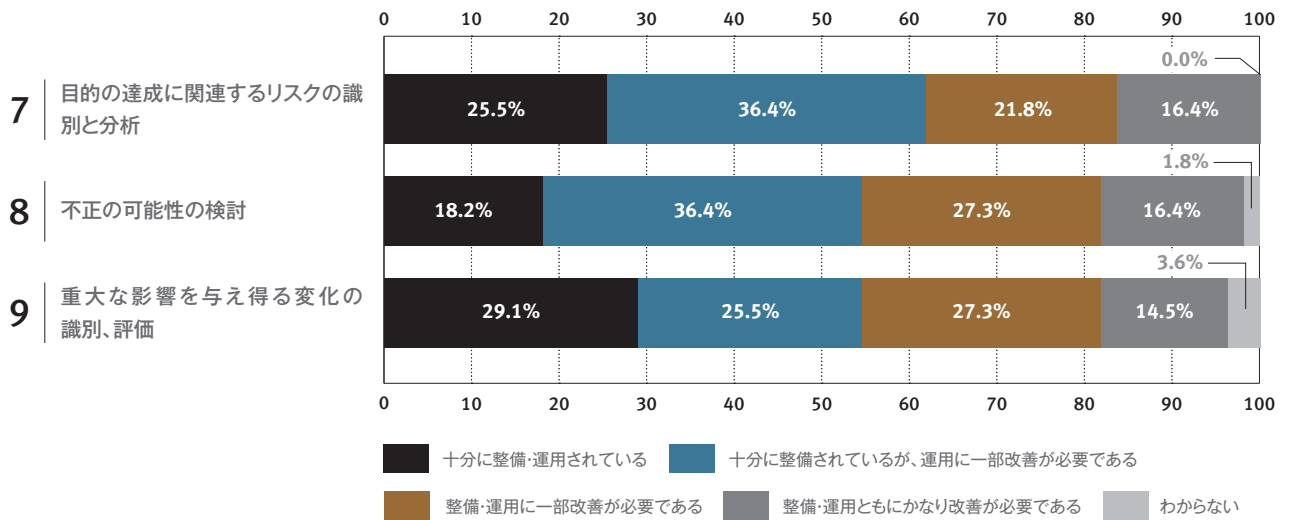
6c 外部非財務報告目的

6d 内部報告目的

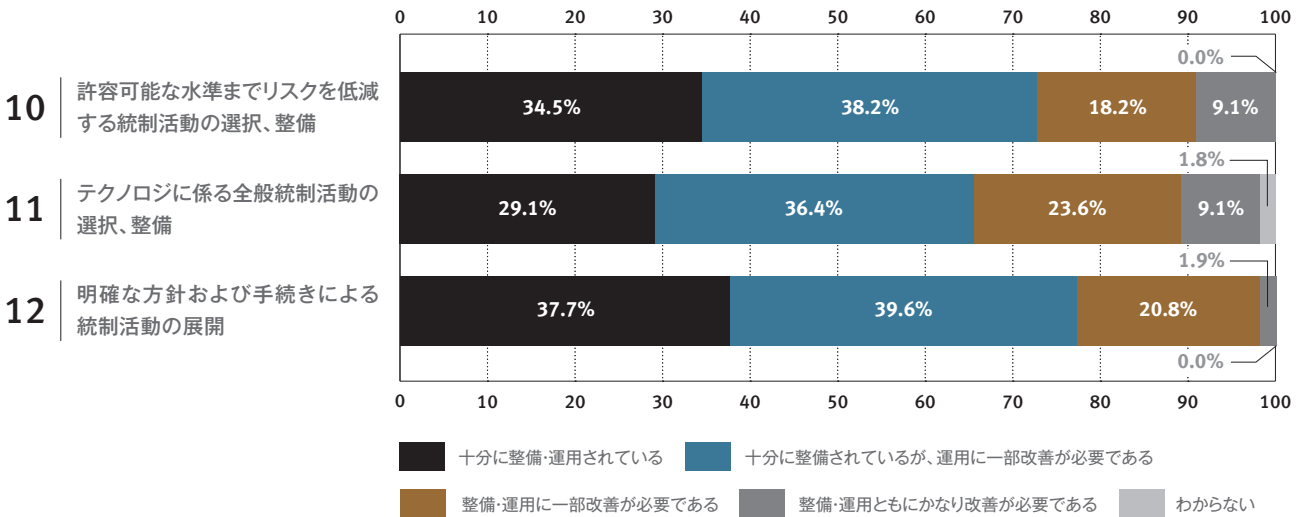
6e コンプライアンス目的



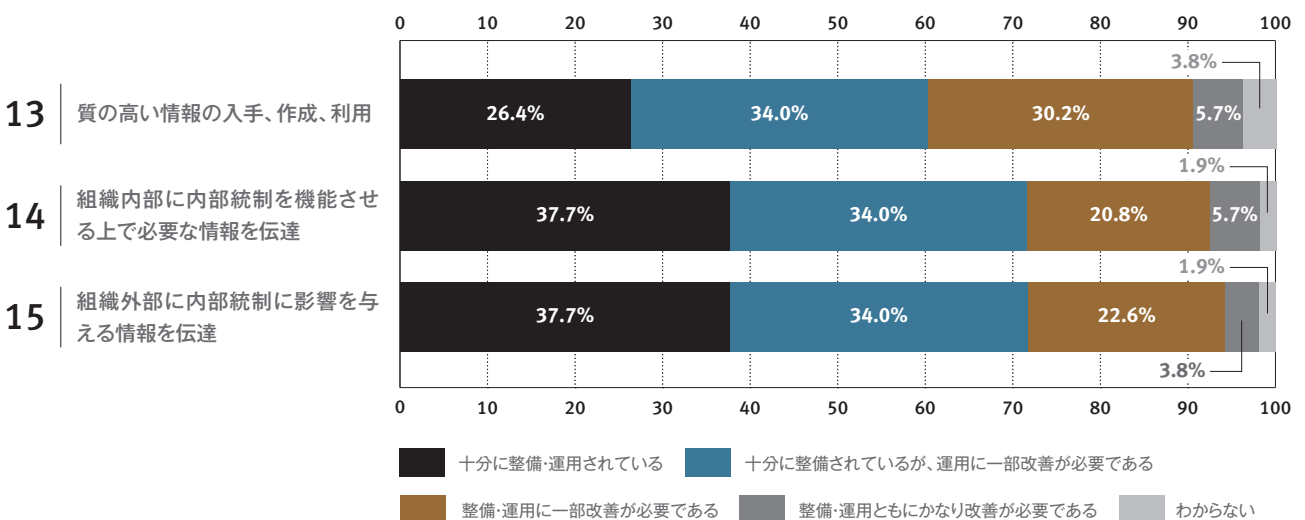
プロテビティ 改訂COSO内部統制の原則に関するサーベイレポート



[統制活動]

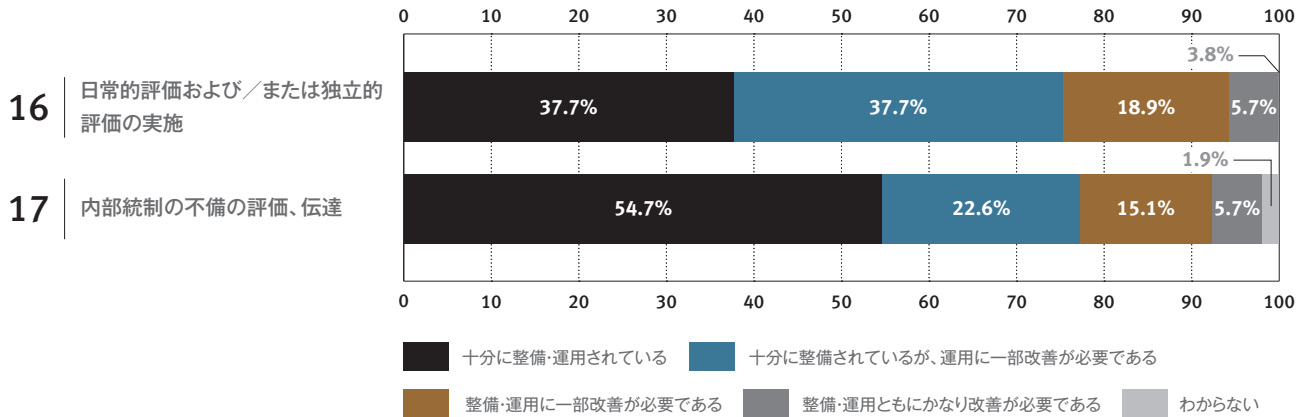


[情報と伝達]



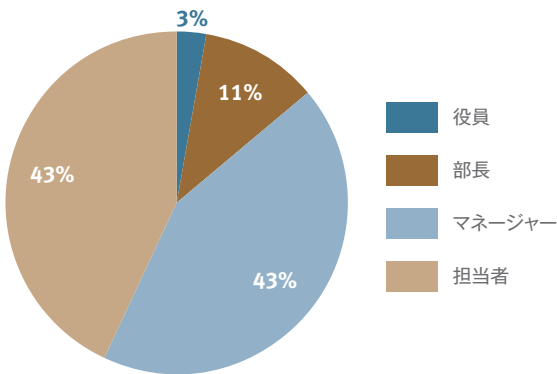
プロテビティ 改訂COSO内部統制の原則に関するサーベイレポート

[モニタリング活動]

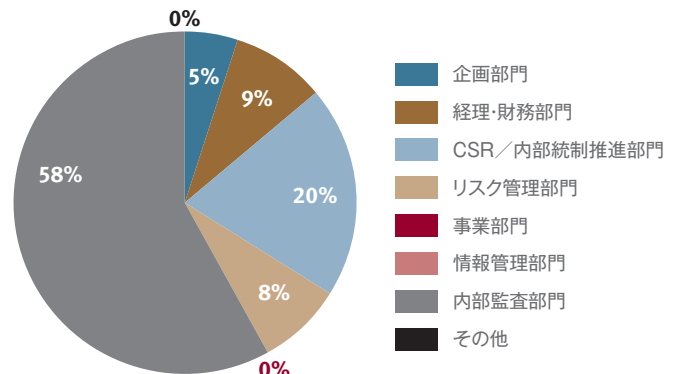


回答者のプロフィール

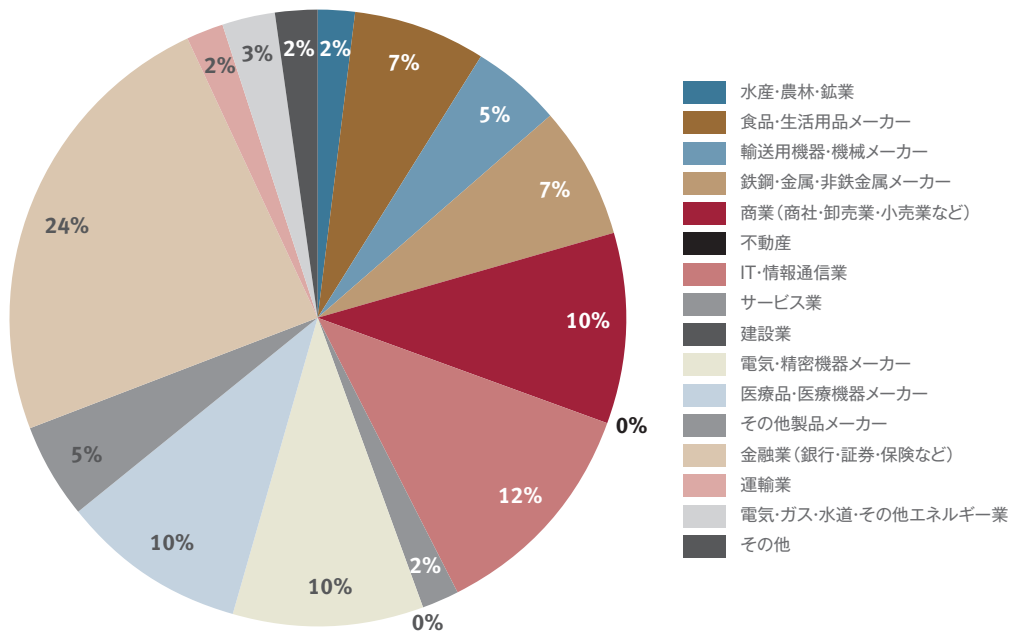
[回答者役職]



[回答者の管轄・所属部門]

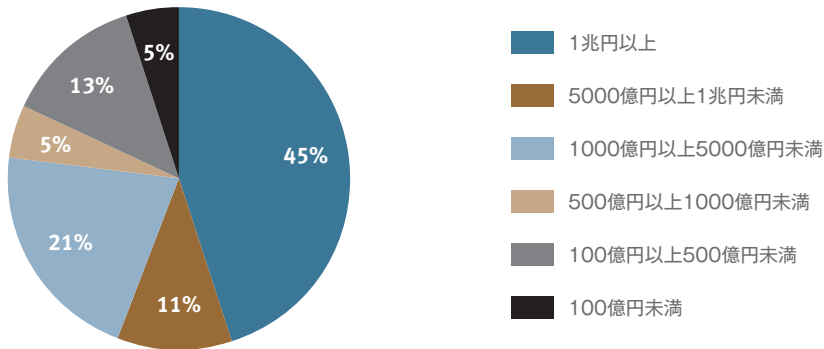


[回答者の属する業界]

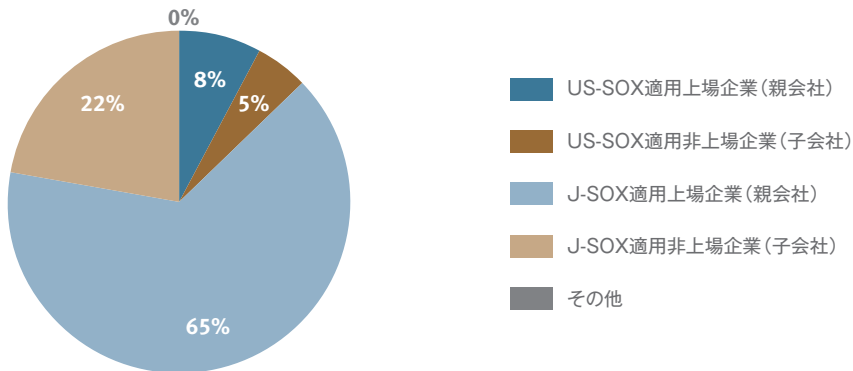


プロテビティ 改訂COSO内部統制の原則に関するサーベイレポート

[回答者の企業規模]



[回答者企業のSOX適用属性]



プロテビティについて

プロテビティ(Protiviti)は、リスクコンサルティングサービスと内部監査サービスを提供するグローバルコンサルティングファームです。北米、日本を含むアジア太平洋、ヨーロッパ、中南米、中近東、アフリカにおいて、ガバナンス・リスク・コントロール・モニタリング、オペレーション、テクノロジー、経理・財務におけるクライアントの皆様の課題解決を支援します。

プロテビティのプロフェッショナルは、経験に裏付けられた高いコンピテンシーを有し、企業が抱えるさまざまな経営課題に対して、独自のアプローチとソリューションを提供します。現在、世界の70を超える拠点で約2,900名のコンサルタントが活躍しています。